

平成26年度 第2回東静岡周辺地区の整備に関する有識者会議 会議録

| | |
|---------|---|
| 日 時 | 平成26年12月26日（金） 午後1時から 午後3時まで |
| 場 所 | 静岡県庁本館4階特別会議室 |
| 出席者職・氏名 | ◎高階秀爾 （公財）大原美術館館長 芳賀 徹 静岡県立美術館館長 遠山敦子 （公財）トヨタ財団理事長 石塚正孝 静岡県コンベンションアーツセンター館長 伊東幸宏 静岡大学学長 木苗直秀 静岡県立大学学長 荒木信幸 静岡理工科大学名誉学長・学事顧問 内藤 廣 建築家・東京大学名誉教授 坂 茂 建築家・京都造形芸術大学教授 東 恵子 東海大学海洋学部教授 岩崎清悟 （一社）静岡県経営者協会会長 中西勝則 （株）静岡銀行 代表取締役 取締役頭取 酒井公夫 （公財）静岡観光コンベンション協会理事長 藤田圭亮 （株）なすび代表取締役社長 知事、静岡市長他 |
| 議題 | ・「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたたずまいを生み出すまちづくりのあり方について ・「文化力の拠点」のコンセプトや導入すべき機能等について |
| 配付資料 | 資料1：平成26年度 第1回有識者会議における意見（概要） 資料2：第1回有識者会議意見による地域づくりのあり方イメージ 資料3：【論点Ⅱ】東静岡駅周辺の「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたたずまいを生み出すまちの機能や、統一感あるデザイン、景観などまちづくりのあり方（事務局素案） 資料4：【論点Ⅲ】東静岡駅南口県有地に整備を見込む「文化力の拠点」のコンセプトや導入すべき機能等（事務局素案） 資料5：「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたたずまいを生み出すまちづくりのあり方、「文化力の拠点」のコンセプト・導入すべき機能イメージ（事務局素案） 資料6：「文化力の拠点」構想体系（骨子イメージ） 資料7：「日本平山頂シンボル施設」整備に向けた基本的な考え方（案） |

【企画広報部長】 ただ今から第2回東静岡周辺地区の整備に関する有識者会議を開催いたします。

委員の皆様には年末のお忙しい中、御出席をいただきまして誠にありがとうございます。

開会に当たりまして、知事から御挨拶を申し上げます。

【川勝知事】 もう本年も余すところ1週間を切るまでになりまして、今日は静岡県でも仕事納めの日になっています。皆様方のそれぞれの部署におきましても、多忙を極めている中、この会議に御出席賜りまして、ありがたく厚くお礼を申し上げる次第です。

来年は、家康公四百年祭ということで、さらにまた、来年の3月ぐらいには8年に1回開かれるサミットの開催地の発表もされると、その開催地の1つに静岡県の浜名湖と日本平が入っていきまして、首脳会議、あるいは閣僚会合の開催地としての有力候補になっています。

そしてまた、こうしたものを背景として、静岡県はこの一、二年の間に、一年半ほど前に、富士山と農業の代表である茶畑が、それぞれ世界文化遺産、世界農業遺産になりました。これに呼応するかのごとくに、数え上げると今、18ぐらい世界水準のものがざざーっと出てきておりまして、一番最近では、ついこの間、天野浩先生がノーベル賞を取られたということもございましたが、もちろん南アルプスがエコパークにも登録されました。また、浜松は音楽の町としてアジアで初めて創造都市ネットワークの中で、いわば音楽の都として認知されるといったこともありました。

あるいは、花の博覧会といいますか、これを昨年3月から6月に浜松でやりましたが、花のまちづくりをしようと、女性の会、牧之原にいらっしゃる方たちがカナダで世界一だと褒められたりしまして、さらにまた、17世紀後半に箱根用水として知られている箱根の芦ノ湖からトンネル、隧道を掘りまして裾野市に出まして、それは今でも使われているのですが、これが世界灌漑遺産になりまして、これは当時は手でといいますか、文字どおりマニュアルの形で掘ったわけですが、寸分の狂いもなく、今もとうとうと芦ノ湖の水がそれこそ裾野を潤しているのもすばらしいということで遺産になりましたし、また、ノーベル賞、今回は青色発光ダイオードですが、その前のヒッグス粒子、あるいはニュートリノを発見する心臓部分、これはホトニクスの光電子の増倍管というのが使われているわけですが、これがマイルストーン賞をお取りになって、文字どおり、静岡の持っている「場の力」、潜在力が顕在化してきたということです。

一方、足元を見ると、東京の外れだとか中京圏の外れだとかいう被害者意識が強くて、自分たちの世界性みたいなものをあまり自覚することがなかったという面がございます。しかしながら、翻って東京における世界水準なものは何か、何でしょうね。

【芳賀委員】 スカイツリー。

【川勝知事】 というぐらいしか出てこなくて、別にそれは世界遺産に登録されているわけではないのですが、建物として東京タワーができた時には世界で一番高い電波塔ということになったのですが、今、世界で一番高い電波塔ということで、しかし、634メートルですから、富士山の3,776メートルから見れば、東京のスカイツリーから富士山が見えた時が

幸福だというぐらい、要するに、仰ぎ見るのは富士山なわけですから。そういう世界水準の魅力というものがしっかりと東西、それからもちろん伊豆半島もジオパークに来年候補として認定される見込みです。また、韮山もそのような候補として、来年文化遺産に認定される見込みであります。

したがって、静岡県東西南北、どこもかしこも世界水準の遺産に恵まれているという中で、私どもは、静岡市のいわば乱開発といった、むしろ景観というものに対して十分な配慮のない形でのまちづくりがなされてきたと。時あたかも地方創生で、まち・ひと・しごと、まちをしっかりとつくっていけということです。

そうした中で、東静岡の操車場跡地が今、御覧になりましたら、車窓からどんどんと変なマンションが……、変と言ったら悪いですが、全体として調和のしないような形でつくられていることを大変嘆いています。

一方、日本平の立派なホテルが新装改築になりまして、また、清水側に果樹研究センターというのがあり、これを自由に使ってよろしいということにもなっております、三保松原も県の方で今度作業部会が立ち上がりまして、海岸の保全、それから松原の保全、さらに三保街道の電柱、それから電線の撤去という方向もようやく整いまして、再来年の2月1日にはイコモス、ユネスコ委員会に報告書を出す時の中身も、我々の方でまとめることができる段階にまでなっています。

何といたしまして、この東静岡は陸路、東西、日本の大幹線のだ真ん中にありまして、人の出入りの多いところになります。一方、日本平を越えまして、清水の方に出れば、富士山に向かう天への出入り口、三保松原がございます。そのど真ん中に、誠に日本平という名前に恥じない、日本最高の名所の地がございます、この人間の出入り口から神域といえますか、霊山への出入り口というところを全部一望できる、そうした富士の最高の眺望の場という日本平まで含めて全体を考えようと。

この間、今回は2回目ですが、折に触れて先生方、特に遠山先生の方からは、非常に細かなことも含めていろいろな情報を提供していただきまして、この場を借りて御礼を申し上げますが、全体について、静岡を愛する方々の知恵であるとか、あるいは知見というものが少しずつ固まって、まさに年末を迎えているということで、今日ここでいただきました意見を来年は形にして、静岡がどこに出しても恥ずかしくないような世界水準のまちをつくっていくと、少なくともその青写真については、多くの方々に共有していただけるような、そういう知恵を出していただける会議になることを心から祈念をしております、

今日少しくまとまった時間をいただいておりますけれども、何とぞよろしくお願いを申し上げます。

高階先生、よろしくお願い申し上げます。

【企画広報部長】　　続きまして、本有識者会議の高階会長から御挨拶をお願いいたします。

【高階会長】　　高階でございます。この有識者会議、既に前回第1回がございまして、第1回目の会議では、知事及び事務局から示された論点が3つございました。1つ目の論点である、「東静岡から日本平、三保松原に広がる地域の『場の力』を高める地域づくりのあり方」を中心に議論を進め、文化とか歴史とか恵みの豊かさ、公共交通、若者、子供と極めて多岐にわたる御意見を出していただきました。

今回の第2回会議では、前回の広いエリアでの議論を踏まえつつ、2つ目と3つ目の論点、すなわち東静岡駅周辺、さらには、駅南口県有地に議論の対象を絞り込み、「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたたずまいを生み出すまちづくり、「文化力の拠点」について議論を進めていただきたいと思います。

国においても、また地方においても、地方創生が盛んに議論されている中、大都市とは異なった個性のある発想で、この東静岡において文化力という特色を明確に打ち出し、静岡らしさを全世界に向けて発信する「文化力の拠点」を形成していく、これは静岡県発展に資することと思われまます。

限られた時間ではございますが、委員の皆様それぞれ、御専門の分野から地理的、あるいは、歴史的、さまざまな豊かさが集積されているこの地、どのような形で文化力の拠点として形成していくか、忌憚のない御意見を承れればと思っております。よろしくお願いいたします。

【企画広報部長】　　ありがとうございます。本日の会議の出席者ですが、お手元にお配りしております委員名簿と座席表のとおりです。また、県及び静岡市の出席者についても座席表のとおりです。

なお本日、寒竹委員及び後藤委員におかれましては、所用により欠席をされておりますので、御報告申し上げます。

これからの議事進行は、高階会長にお願いいたしたく存じます。よろしくお願いいたします。

【高階会長】　　それでは、次第に基づきまして、本日の議事の進行をいたします。

まずはじめに、第1回有識者会議における意見について事務局から御説明をお願いいたします。

【企画広報部長】 改めまして、県の企画広報部長 白井でございます。

それでは、お手元の資料1を御覧ください。座って失礼いたします。

去る9月8日に開催をしました第1回有識者会議で委員の皆様方からいただきました御意見、それから、会議の後、木苗委員、東委員からは事務局宛てに御送付いただきました追加意見を、前回の会議でお示しをいたしました3つの論点、先ほど会長から御説明がありましたとおりですが、「東静岡から日本平、三保松原地域の『場の力』の最大化」、それから「文化とスポーツの殿堂」、それから「文化力の拠点」の施設、これらごとに取りまとめたものです。

まず、1つ目の論点につきましては、資料1ページの右側の意見のまとめにございますように、「場の力」を高める面としての地域づくりとして、施設相互の連携強化や公共交通機関の充実、回遊性ある緑のネットワークの形成などによりまして、「点」である個々の施設を「線」、さらには「面」に高めていく一体的な地域づくりの必要性などについて御意見をいただきました。

また、「場の力」を引き出し、メッセージとして発信していくための当該エリアのネーミングの重要性、協働の取り組みの積み重ね、非日常性と日常性が複合された空間づくりなどにつきましても御意見をいただきました。

さらに、2ページに入りまして、「^{だづぐるま}脱車」をキーワードに公共交通のあり方に対する具体的な御提案もいただきました。

次に、地域の特徴や独自性を打ち出した求心力の強化としまして、交通の利便性を活かし県外から人を呼び込む視点や、日本平山頂の夢殿整備による本地域の魅力の最大化、文化力という明確な特色の打ち出し、歴史の観点や、3ページにまいりまして、恵みの豊かさなどから文化を捉える視点、子供が楽しめる・学べる環境、学生や留学生などの若者が集い、にぎわい、学び、地域とともに活動する環境といった地域の独自性の打ち出し、アイデンティティを確立するための方策などについて御意見をいただきました。

資料の4ページをお開きください。次に、県都静岡の新拠点にふさわしい地域づくりといたしまして、東静岡と静岡がともに活気が出る地域づくり、県と静岡市とが連携した地域づくり、駅近くに残った貴重な未開発の土地であるという視点などについても御意見をいただきました。

加えまして、事業の主体をはっきり議論すべきという御意見もいただいたところであります。

続きまして、資料の5ページをお開きください。本日、集中的に御議論いただく2つ目、3つ目の論点につきましても御意見をいただきましたので、整理をいたしました。

まず、2つ目の論点につきましては、新幹線への視覚的メッセージの重要性、夢殿ホールの御提案、豊かな自然、植物、恵みを感じられる拠点づくり、周辺緑化の推進、県有地・市有地を併せて計画する必要性などについて御意見をいただきました。

資料の6ページをお開きください。3つ目の論点につきましても、拠点機能検討の視点として、移住も含めて県外からも人を呼び込む視点、静岡らしさ、個性・特徴ある発想が必要、「文化力」を誰のためにどう発揮するのかをイメージしておくべき等の御意見をいただきました。

また、地域の独自性を打ち出す「文化力の拠点」機能として、歴史の観点、恵みの豊かさ、子供を大切に育てるメッセージ、母親が静岡で子供を産み育てたいとなるような気持ちにさせる機能、若者に結婚や子育てに対して明るい展望を持たせる機能、7ページにまいりまして、学生が集い、にぎわい、学び、活動できる機能など、さまざまな御意見をいただきました。

次に、お手元の資料2を御覧ください。カラー刷りのイメージ図ですが、第1回有識者会議での御意見等に基づきまして、地域づくりのあり方をイメージして図面に表したものであります。図面上の赤い四角で書かれた部分は、有識者会議での御意見に基づくもので、水色の四角に書かれたものは県や静岡市の既に計画されている事業等に係るものを表しております。

以上、資料1及び資料2は、前回の会議の御意見を取りまとめたものでありますので、御確認をいただきたいと思います。以上です。

【高階会長】 続きまして、本日の会議において、皆様に御議論いただく論点2、東静岡駅周辺の「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたたずまいを生み出すまちづくりのあり方について、そして、同時に論点3の文化力の拠点のコンセプトや導入すべき機能について、一括して事務局から御説明をお願いします。

【企画広報部長】 ただ今、会長から御紹介がありましたとおり、本日、2つの論点についての御議論をいただくわけですが、本日の御議論を進めていただく上での端緒として、第1回会議でいただきました委員の皆様御意見を取り入れて、事務局の素案をイメージ

として作成しました。

資料3を御覧ください。委員の皆様には、これをたたき台として御議論を進めていただければと思っております。

それでは、初めに資料3の1ページ、論点2、東静岡駅周辺の「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたたずまいを生み出すまちの機能や統一感あるデザイン、景観などまちづくりのあり方についてであります。

まず、1の「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたたずまいを生み出す機能につきましては、東静岡駅周辺を、(1)として東静岡から日本平、三保松原に広がる学術、文化・芸術、スポーツの集積エリアへの玄関口、右側にまioriまして、(2)として文化とスポーツに触れ・楽しみ・親しむ場、さらに(3)として文化・スポーツを通じて多彩なふれあいを生み出す場と捉えまして、例えば、例といたしまして、それぞれ枠で囲ったところに記載のように、展望デッキや案内機能、交通結節点としての機能、安全かつ円滑なアクセス動線、集い、交わり、にぎわうことができる交流スペースなどをイメージしております。

続きまして、2ページをお開きください。2ページ目の「文化とスポーツの殿堂」にふさわしい統一感あるデザイン、景観などまちづくりのあり方につきましては、(1)富士山の眺望への配慮、(2)の美しい景観のまちづくり、(3)の「文化とスポーツの殿堂」にふさわしい統一感あるデザインの形成、この3つを柱として考えています。

このうち、(1)の富士山の眺望への配慮につきましては、富士山の眺望を確保するため、核となる施設の配置や建築物の高さへの配慮、富士山の眺望場所の整備、富士山眺望の借景としての活用に配慮すること。

(2)の美しい景観のまちづくりにつきましては、新幹線からの視線を意識した景観形成、駅南北をつなぐ景観軸の形成、潤いある景観の形成、にぎわいと風格を生む夜間景観の演出に配慮すること。

右側にまioriまして、(3)「文化とスポーツの殿堂」にふさわしい統一感あるデザインの形成につきましては、駅の南北に整備をいたします「文化とスポーツの殿堂」それぞれのデザイン、景観の一体的なコーディネート、背景となります丘陵の緑に映える建築形態、新都市にふさわしい光、水、緑あふれるオープンスペースの確保、親近感あるデザインによる整備をそれぞれの配慮すべきポイントとしてイメージをしているところでございます。

次に、資料4をお願いいたします。資料4の1ページですが、こちらは論点3、東静岡駅南口県有地に整備を見込みます「文化力の拠点」のコンセプトや導入すべき機能等につ

いてであります。

まず、「文化力の拠点」のコンセプトにつきましては、前回の会議資料でもたたき台としてお示ししましたとおり、「創造・発信」、「学ぶ（人づくり）」、「出会い・交わる」の3つを柱として考えております。

「文化力の拠点」は、魅力があり憧れられる文化を生み出し、あるいは、地域の伝統や生活文化を継承し、それらを国内外へ発信する場であり、また、地域の文化を担う人材の育成や、“ふじのくに”ならではの学びを提供する場であり、さらに地域外交による国際化や多彩な文化活動と交流を拡大する魅力ある空間を提供する場としてイメージをしています。

次に、ページの右側、2の「文化力の拠点」に導入すべき機能を御覧ください。

(1) 導入機能検討に当たっての視点につきましては、大都市にない静岡らしさ、個性や特徴のある発想、あらゆる人に向けて文化力の高さを発信する視点などを、検討に当たっての視点といたしまして、コンセプトの3つの柱ごとに、(2)「文化力の拠点」に導入すべき機能のイメージを整理したところです。

はじめに、「創造・発信」の柱につきましては、①といたしまして、静岡の「場の力」を生かし、個性ある文化を創造し、育み、発信する拠点機能を想定しています。枠内に例としてお示したように、茶・食・花の都の発信拠点や、歴史・文化の展示施設、富士山世界遺産センターのサテライト機能などが考えられます。

2ページをお開きください。さらに、②恵み（食文化の豊かさ、農業、漁業）の豊かさ、自然や植物を実感できる機能といたしまして、枠内に例示をいたしました、食材や食文化を体感できる施設や、世界水準の魅力を発信する施設などが考えられます。

「学ぶ（人づくり）」の柱につきましては、③の学生をはじめとした若者が集い、地域に根差して活動し、静岡ならではの学びができる機能といたしまして、大学コンソーシアムの活動拠点や、防災先進県としての情報発信施設など、④の生涯を通じて文化に触れ、学び、楽しみ、みずからを高める機能としましては、美術館、博物館、図書館、こども館などが考えられます。

そして、⑤の歴史の観点から静岡を学べる機能といたしましては、歴史文化情報センターや古代東海道を活用した広場などをイメージしています。

3ページをお開きください。3つ目の柱であります「出会い・交わる」、これにつきましては、⑥の日本平、三保松原に広がる地域の玄関口にふさわしい交流の核となる機能とし

て、飲食スペースやホールなど、⑦の海外との多彩な出会い・交流を生み出す機能といたしましては、多文化交流施設や留学生支援施設など、そして、⑧の母親や若者に明るい展望を持たせられる機能といたしましては、出産・子育てを支援する施設や、出会いのスポットなどを想定しています。

次に、資料5を御覧ください。こちらもカラーの写真ですが、今回の会議におきます、ただ今御説明をしました2つの論点につきまして、事務局素案を図化したものです。左下の薄茶色の吹き出しになったところでの記述が論点3に関するものでして、それ以外の記述につきましては、論点2に関するものとなっています。

本日の会議で御議論いただく2つの論点について、事務局素案についての御説明は以上です。

続きまして、最後に資料6を御覧ください。A3判の縦型のものです。資料6ですが、これは次回3月に開催を予定しています、第3回の有識者会議では、1回目及び本日2回目の御議論を踏まえまして、「文化力の拠点」の基本構想案について御協議、取りまとめをいただくことを予定しております。当資料6は、次回の会議を見据えまして、構想の体系を骨子イメージとして提示をさせていただくものです。

1ページには論点1について、現状認識から導き出される地域づくりのあり方について、前回御議論いただきました主な内容を記載してございます。

2ページには、論点2及び論点3につきまして、資料3、4で御説明しました事務局イメージを記載しています。本日の会議での御議論を踏まえて、修正、拡充を図ってまいります。

本日は、この構想の骨子イメージにつきましても、委員の皆様方から御意見をいただければと考えております。説明は以上です。よろしくお願いいたします。

【高階会長】 では、続きまして、文化・観光部長から「日本平山頂シンボル施設」整備に向けた基本的な考え方（案）について御報告をお願いします。

【文化・観光部長】 文化・観光部長の伊藤です。よろしくお願いいたします。座って失礼します。

「日本平山頂シンボル施設」整備に向けた基本的な考え方につきまして、お手元の資料7で御説明いたします。そちらの方を御覧ください。

前回の第1回会議では、東静岡から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域の「場の力」の最大化に向けた地域づくりのあり方につきまして、御議論いただく中で、夢殿構

想について、日本平の魅力を引き出す上で、その役割は非常に大きいとの御意見を頂戴いたしました。また、静岡市から構想の目的やコンセプトをもう少し明確にしてほしいといった御意見も事務局的には寄せられてまいりました。

このため、県では、庁内の関係課からなるプロジェクトチームを立ち上げまして、安田補佐官の助言をいただきながら、「日本平山頂シンボル施設」の整備に向けた基本的な考え方を取りまとめているところです。本日は、お時間を頂戴いたしまして、現時点で整理いたしました考え方につきまして、御報告させていただきます。

上段の記載ですが、日本平は改めて申すまでもありませんが、世界遺産富士山をはじめとする優れた眺望を有する、日本を代表する景勝地であり、名勝の指定を受けています。また、東静岡から三保松原にかけての地域は歴史的・文化的遺産や学術・文化・芸術関連の施設が集積するエリアでして、日本平はその中心に位置しています。

こうしたことから、上段右側ですが、日本平の山頂部を、日本のシンボル・霊峰富士を仰ぐ場として、東静岡地区の「文化力の拠点」とし、美を重んじ、周囲の絶景と調和するように、和を尊び、品格のある施設を整備する必要があると考えています。

真ん中ですが、施設のコンセプトです。富士山の眺望、日本平エリア、自然との共生、ポスト東京時代の4つのシンボルとなる施設と位置付けました。

日本平山頂からの富士山の眺望は、古来、多くの人々に愛され、芸術の題材にもなるなど、全国に富士見とつく地点が多数ございますが、日本平山頂こそ、富士山眺望の聖地となり得る場所であると考えます。

また、日本平周辺には、世界遺産富士山の構成資産である三保松原、国宝である久能山東照宮等の多くの歴史的・文化的資産に加えまして、静岡大学、県立大学、県立美術館、ふじのくに地球環境史ミュージアム、グランシップ等の多くの学術・文化・芸術の拠点施設が集積するエリアです。日本平は、その中心に位置しています。

さらに、本県が推進しています食の都、花の都、茶の都は、本県の豊かな自然がもたらした賜物です。茶畑に囲まれ、富士山や駿河湾を望む日本平は、自然との共生のシンボルにふさわしい場所と考えています。

ポスト東京時代を先導する本県から、明治以来続く東京時代から地方の時代へ転換するメッセージを、日本のシンボルである富士山を眺望する日本平から発信する意義も大きいと考えています。

次に右側にまいりまして、求められる機能です。快適な眺望、方位の表示、日本の伝統

文化・日本平の価値の情報発信の3つの機能が必要であると考えました。

日本平山頂には、テレビ用のデジタル鉄塔が立っていますが、この鉄塔が眺望の妨げとならないよう、富士山の眺望を中心に、快適な眺望環境が求められています。また、日本平から見渡す眺望の魅力を最大化するためには、東西南北、東南、西南、西北、東北の8つの方位を明確にする機能が必要です。法隆寺の夢殿のほか、東京駅、日本武道館など八角形の著名な建物が参考になると考えています。

さらに、日本平には、日本武尊やまとたけるにまつわる神話のほか、伝承に基づく由緒ある地名、日本平を題材とした文化芸術作品など、歴史・文化・芸術の宝庫です。こうした日本平の価値に加え、周辺のふじのくに地球環境史ミュージアム、県立美術館、県立大学、さらには整備中の富士山世界遺産センターと連携した研究成果等の情報発信が求められています。また、この場にふさわしい、上品な軽食・喫茶の機能も必要と考えています。

最後に下段になりますが、これらのコンセプト、求められる機能から導かれる施設整備の方向性です。快適に眺望を楽しむことができる施設、日本文化・日本平の価値を知ることができる施設、富士山にふさわしい品格ある施設の3つに集約いたしました。

施設整備の方向性につきましては、今後、有識者の皆さんの御意見を参考に、さらに内容を詰めていく必要があると考えています。

また、今後の施設整備に当たりましては、整備手法や規模等の詳細につきまして、現在、日本平公園全体の整備を行っています静岡市と、十分連携、調整しながら、文化庁の御指導もいただきながら進めてまいりたいと考えています。

私からの報告は以上です。

【高階会長】 ありがとうございます。それでは、これから意見交換に入らせていただきます。

ただいま事務局から、9月の前回会議で皆様に御発言いただいた地域づくりのあり方の内容のまとめ、それから、今回の会議で議論すべき2つの論点、さらには、次回会議に向けた構想体系の骨子イメージについて説明がありました。

本日の会議では、前回会議での議論を踏まえ、議論する対象エリアを段階的に絞り込み、東静岡駅周辺の「文化とスポーツの殿堂」のまちづくり、そして、駅南口県有地に整備を見込む「文化力の拠点」のコンセプトや導入機能などを中心に議論をしていきたいと思えます。

それでは、どうぞ、どなたからでも御自由に、まず御発言をお願いいたします。

では、前回いらっしやらなかった坂さん、お願いいたします。

【坂委員】 前回出席できず、すみませんでした。

非常によくまとまった資料で、内容も必要なことが全て網羅されていますし、それと、この静岡にはすばらしい施設もたくさんあり、その「点」をどうやって「線」として「面」として結ぶかと、それに尽きると思うのですが、逆に全体の話ではなく、論点3から私は考えたいなと思っているのですが、1つの考えるレファレンスとして、私は海外にすることが年の中でも長いものですから、今回の富士山世界遺産センターをやらせていただくことになって、海外で友達や文化関係者に、富士山は分かるのだが、富士山はどこにあるのかとみんなに聞かれるのです。静岡ですよと言っても、静岡を知っている人はほとんどいません。海外では、名古屋といっても分からないです。東京と大阪の間は、海外の人には全く知られていません。そういう意味で、私は、まず静岡という名前を世界的に売り込むべきだと思うのです。

これは本当に残念なことなのですが、今、世界で福島は誰でも知っています。そういう意味ではなく、静岡をやはり世界の人たちに、まずは売り込むということが必要だと思うのです。

そのためには何をしたら良いかという、例えばアート・バーゼルが開かれる前に、バーゼルという町を聞いたことがある人はほとんどいなかったと思うのです。だけれども、今は文化関係者、建築関係、様々な人たち、もうバーゼルってすぐ分かるのです。あるいは、バーゼルという名前のコンテンツがマイアミへ行ったり、バーゼルではないところでもバーゼルのフェアが行われ、コンテンツだけ世界中に散らばってやっているわけです。世界でバーゼルは超一流の名前になっています。

例えばダボスもそうです。スイスの本当に小さなリゾート地、ここでダボスの会議が始まり、回を重ねていますが、世界中の人たちがダボスを知っています。それによって、もちろんダボスの会議は1週間くらいなのですが、それ以外の時にも観光の名所になりますし、観光客がものすごく増えていると聞いているのですが、これだけたくさんものがあるのをどうやって結んでいくかということは、やらなければならないことですが、その1つの核として、やはり静岡の名前を付けた、何か世界的に誇れる、世界から人が集まってくるようなイベントを1つ考えて、その拠点に、今回の東静岡の文化の殿堂と考えている県の場所を使い、さらに磯崎さんのグランシップがある。

そういう意味で、今度新しくつくる県の文化の拠点は、グランシップと機能を共有する

というか、例えば静岡何とかという大イベントをやったとすると、この新しい施設とグランシップ、それから、その間にある芝生のところも含めて全部使った、静岡何とかというイベントに使っていくと。

例えばアート・バーゼルでも、行った方は分かるように、ろくな建物は無いのです。あとはいろいろな企業なりギャラリーなりが、仮設で展示施設をつくったりします。だから、そういう仮設の場所として、この真ん中の芝生の場所はすごく良いと思うのですが、決してビルバオ的な、何か目立つ彫刻的な建物をつくって有名になるのではなく、やはりコンテンツで有名になるべきだと。そういう意味で、ダボスもアート・バーゼルも、別に建物にお金はかけていない。そんなことに頼っていないのです。でも、コンテンツで世界に有名になって、そこからいろいろなイベントが広がって、観光客も増えて、静岡もこれだけいろいろなものがありますから、その1つがあれば、世界中から人が来れば、そういうものをどんどん活かしていけるのではないかなと考えています。以上です。

【高階会長】 ありがとうございます。それでは、中西さん。

【中西委員】 今の坂先生に大変賛成でして、私から1つ提案があるのですが、今、日本でそういったものが集められる大きなコンテンツというと、アニメだとかコミックだとか漫画なのです。こういったものの共同展みたいな殿堂をつくって、現在、アニメだとか漫画で一番困っているのは著作権の整理なのです。著作権を整理する国の機関を持つてくると、必ず著作権の人たちがたくさん来ます。それと、漫画とかアニメの殿堂をつくっていくと、そういうのも一緒にしていって、例えば県有地なんかは、工房として若い連中を育てていく。それから県大だとか、その他大学には、そういったものの学部だとか学科をつくってもらい、全体でコミック・漫画といったもののコンテンツを育てていく、というのを後押ししていく。その殿堂は、そこにつくって人を集めていく。

それから、産業としてはプラモデルがありますので、アニメだとか漫画にプラモデルをくっつけることができるし、プラモデルの博物館もあることから、それをさらにくっつけていくこともできます。この前、ガンダムの大きな模型が来ましたが、あれだけで40万人、6カ月ぐらいでしたか、9カ月で集めたというようなことから、人が集まるということを最初に考えることと、予算もそうですが、国の著作権とかいうのも持ってきて、できるだけお金を国にも払ってもらおう。そうすると、人が集まることによってシティホテルができたり、会議場ができたりする。会議場は前にありますし、例えば漫画とかコミックだとかアニメの大きな大会をやる時に、前の会議場も使えるというようなところから始まって、

日本平の良さだとか、富士山の良さを発信したらどうかというように、私もコンテンツを持ってくるのは大賛成です。

【高階会長】 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。どなたでも。

【芳賀委員】 確かに、どういう内容をそこに盛り込むか。坂さんがおっしゃるように、まずそれは非常に大事なことです。アート・バーゼルというのは、専ら美術ですか。美術、絵画とか彫刻とか、それから映画なんかも入っていますか？

私は、アート・バーゼルは知りませんでした。世界的に有名だということを、知りませんでした。

ところが、静岡で何を盛り込んだら良いのか。アニメ、漫画、それからプラモデル、それでは少し弱いです。世界にとっても及びそうもない。それから、日本中にも及びそうもない。アニメや漫画は日本国内あちこちで、もうやっている。大学でもあちこちでアニメ学科、漫画学科をつくって、お互いに競争して、お互いに損してしまっているという関係になっています。

だから、わざわざ東静岡に殿堂というか、建物をつくって、そこで催しをして周辺に文化的な影響を及ぼそうという時は、やはり富士山、それから神話、そういうことをめぐって何か考える会議、それも3年に1回なんていうのではなく、毎年、例えば富士山で、我々は富士山を非常に敬愛し、いろいろ勉強もしていますが、富士山だけではなく、富士山のような、いわば名山、霊山、それから高い山、美しい山で、いろいろな文化の源泉になっているような山は、ほかにも世界にもあるはずで、世界名山サミットといいますか、そういう研究会をずっと続ける。そうすると、日本平も生きてくる、三保松原も生きる、駿河湾も生きる、それから、ここからの富士山の眺望は当然生きる。だから、富士山を中身にしなければいけない。それで、富士山をめぐってアニメや漫画があっても良いし、模型があっても良い。

しかし、インドネシアの火山、あそこは年中爆発して、周辺の人々に被害を及ぼしている。フィリピンもあるらしい。キリマンジャロもある。それから、マッキンリーなんて、全然神話も芸術も関係ないような、ただ高い山もある。スイスのアルプスなんていうのも、あまり芸術や文化とは関係なさそうだ。

では、ああいうところが一体どういうようにして地域の人とつながっているか。ただ単に観光なのか、そういうことも考えて。だから、学者だけではなく、その地域の、その国の観光関係の人が来たりして、いかにして、そういった山の景観を文化、ビジネスの活動

に活用できるか。そのような中身を盛るもので始めるのが、この施設にはふさわしいのではないかと思うのです。

日本平では薪能がある。三保松原では「羽衣」を薪能で演ぜられる。それから、富士山世界遺産センターもそういう頃にはできているというようにして、当面は富士山を中身にして、富士山をどのようにして、我々は、この静岡のみならず、東海道沿線で、そして日本として、我々のアイデンティティのよりどころとして活用していくか。それが世界の高山、名山と連ねてみる時に、どのような位置にあるのか、どのような意味を持つのか、それだけ違うのか、共通しているのか。そういうことをやっていくと、テヘランも関係してくる、ケニアも関係してくる。

そうようにして、非常にお金はかかりますが、しかし、それくらいやらなければ世界的に有名にはなりません。だから、ちょこちょこっとアニメなんかやっても、だめだと思う。静岡のためにならない。

【高階会長】 ほかにいかがでしょう。中西さん。

【中西委員】 アニメ1つでやっているのだめなのです。私どもも全国のアニメの博物館とかをよく調べました。ほとんど赤字です。大変苦勞しています。

何が大事かといいますと、我々が発信していくというより、アニメ、漫画は、権利関係がしっかりしていないのです。世界のいろいろなところ、ヨーロッパへ行っても、南アメリカへ行っても、アメリカへ行っても、アジアへ行っても、日本の文化として、アニメはものすごく浸透しています。

そうした中で、実はものすごく海賊版も多いのです。何故かというと、著作権がしっかりしていない。そうしたものをまとめた国の機関等が来れば、ここに必ず人がたくさん集まります。さらに博物館的なもので人を集めていく。それが、さらに生活としての文化、ですから、工房をつくったり、言うなればアニメとか漫画のハリウッ的なものをつくっていくとかいうことで人を集めていく。それは当然、富士山もあるし、食べ物もあるので、そういったものはバックアップとなって、お互いが相乗効果を出していく。

一つ一つは、本当に、やっているのを見ているのですが、京都や兵庫でも学科なんかありますが、大変な思いをしているのは分かっていますが、全体をつくっていく。日本に来て、漫画やアニメをやったときに、どこに行ったら良いかといった時に、本当に「点」でしかないのです。それが集まっていないのです。そういったものを静岡につくることによって、人がたくさん増えるのではないかと思います。そこから新しく発信していくというような

ことが、静岡という名前を売るということも含めて、良いのではないかと考えています。

【芳賀委員】 前に日本政府がアニメの殿堂を国としてつくろうとしたが、結局潰れました。

【中西委員】 あれも少し、大臣も含めて聞いてきました。潰れたのには潰れた理由がありましたので、そういったところを我々もよく見直していく必要があると思います。

【高階会長】 今のアニメの問題だけではなくて、映像芸術に関しての二次使用等に関する知的財産権の問題、これは国として取り組まないといけない問題です。ここに何かの支部をつくっても、非常に大きいと思います。

ほかにいかがでしょうか。どういことをやっていったら良いか。はい、岩崎委員。

【岩崎委員】 私は産業という立場から、この土地の活用ということを少し考えてみたいと思っています。

この使い方で行きますと、論点3の⑦の多文化共生というところに、少しスポットを当ててみてはいかがかという思いがあります。ここは留学生ということで、学生が主体になっていますが、学生にとどまらず、例えば、これから静岡県の産業が目指していくのは、やはりグローバルな展開なのです。そうしますと、例えばマザー工場の機能でありますとか、あるいは研究開発、R&Dの機能をこの静岡に集積させていくということを考えますと、静岡にない機能がたくさんあるのです。例えば、向こうから企業エリートが日本に来て、研修を積む。その期間、例えば1年2年、家族連れで来た時に子供たちをどうするか。静岡には英語で教育をする場がないのです。こんなところには来ないのです。

これは、私は大変な問題だと思っています。どんどんこれからグローバル展開をしていきます。外に事業所がどんどん増えていきます。だけれども、やはり静岡の企業というのは、この場で、その企業のアイデンティティというものを世界に伝えていきたいと思っているのです。ところが、そういう場がない。これは将来の静岡にとって大変なマイナスだと私は思っています。

この東静岡は、ちょうど良い場所だと思っています。ここにもし学生だけではなく、実業界の海外の人たちが来て生活をするということになりますと、この地域にいろいろな文化が集まってくることになると思います。例えば飲食もそうですし、それから、既にあるグランシップを使つての文化的な催し物も、もっと国際的にいろいろな地域の、例えば文化がここで行われるということになれば、本当の意味の多文化共生の拠点になるのではないかと思います。

これは是非一度御検討いただきたいと思います。この7番目をもう少し拡張して、学生にとどまらないで、産業のビジネスマン、特に海外のビジネスマンをここに招致することを含めて考えていったらどうかと思っています。そうなりますと、本当の意味の国際化というのは、多分そこから進んでいくのではないかと考えているところです。

【高階会長】 ありがとうございます。ほかにいかがでしょう。

はい、石塚委員。

【石塚委員】 現場を預かる者として少しお話をしたいと思います。

静岡の文化に関係する団体とか施設は沢山あるわけですが、ざくっと見たところ、みんなそれぞれ個別の活動をされているような気がするわけですが、例えば県の文化施設でいえば、グランシップがあったり、SPACがあったり、美術館があったりという、そのコラボレーションをもっとやっていくと、いろいろな知恵が出てくるだろうというような感じがしています。

それを縦糸としますと、次に地域のそれぞれの文化会館とかホールがあるわけですが、それと、横の連携をもう少し強めていきますと、縦糸と横糸というようなことになって、静岡全体の文化力を上げる力が高まります。その一番の中心が東静岡、こういう位置付けができるのだらうと思います。そういう意味で、静岡の全体が持っている文化力を、もう少し有機的に連携するような活動を進めていったら良いのではないかと考えています。

それから、グランシップの稼働率についてですが、グランシップの役割は、1つはイベント、もう1つがコンベンション機能なのです。稼働率そのものは平均すると80%強で、かなり高い稼働率を示しているのですが、イベントに関していうともう少し努力をする必要がある。イベントを活発化するためには、全体の文化力といいますか、人・物・金が必要なのですが、その辺に力を入れていかないと、なかなか充実していかないだらうと感じています。

それから、もう一つはコンベンションで、全国的な、大きなコンベンションをやろうという場合に、一番ボトルネックになっているのが宿泊容量なのです。どうしてもシティホテルの数が少ないということがあって、それで、せっかく静岡を希望されても、そちらの方でほかのところに行ってしまうということもありますので、今回の全体構想の整備に合わせて、その辺の宿泊容量等についてもうまく取り組んでいったら良いのではないかと考えています。

【高階会長】 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

はい、どうぞ。何か今の件で。

【田辺市長】 今の石塚委員の御意見に賛成であります。「文化力の拠点」ということでは、連携のセンターとして、どんな機能を東静岡に持たせるべきかと。

先ほどの一連の意見の中でも、私は県立中央図書館のあり方を再考したらどうかということの問題提起したいと思っています。県立中央図書館はアクセスが非常に悪い。しかし、全国有数の公立図書館機能を持っていると思っています。

昨年、利用者アンケートを県立中央図書館が行ったそうです。そうしてみると、県立図書館ということなのですが、利用者の79.9%は静岡市民なのです。私たちにとっては大変ありがたい話なのですが、ほとんど静岡市民が利用している県立図書館になっている。これは非常にもったいないです。

先日、実は年末の県の市長会が静岡市内でありまして、私、問題提起をしてみたのです。そうしてみたら、いや、確かに我々も県民だと。そういう意味ではもっとアクセスのいいところに県立中央図書館があれば啓発もするし、利用も促進されるだろうということで、その意味ではやはり東静岡、東海道線の駅前に知の宝庫である県下の中央図書館があるということは、県民の求心力を向上させるためにも大変望ましい方向であると思っています。

今は車でしか行けない谷田の県立図書館、最初はあそこを文教地区として、美術館、大学、図書館を3点セットでそろえようということだったのでしょうが、高齢化社会に時代が変わってきている中で、やはりコンパクトシティという観点からも、公共交通機関で気軽に行けるという意味では、JRのそばの東静岡に文化の殿堂として、中心としての図書館機能を移設していくということは、私は大事なことだと思っています。

そして、そこに付随をして、アニメとかコミック、先ほど中西委員が提案された考え方、これも私は賛成ですが、こういう機能を付加していけば良いと思う。確かに芳賀委員のおっしゃるように、中途半端なものをつくっても、それは競争力がないだろうと。

これは遠山委員にお伺いしたいのですが、数年前、麻生政権の時に、文化庁が中心になって、東京都内にアニメ、コンテンツ産業の拠点となるような、国営漫画喫茶などとマスメディアからは揶揄をされましたが、漫画、コミックのコンテンツ産業の殿堂をつくろうというような構想がありました。私の静岡出身の友人がその担当だったのでそのことをよく存じ上げているわけですが、それが麻生政権が終わって、考え方が消えてしまったのです。ただ、その後からもクールジャパンのブームの中で、アニメやコミックは、日本に対する求心力として大変強い国際競争力を持っているわけです。そうなっていくと、やはり

これは非常に魅力的なコンテンツだろうと。

安倍政権になって、地方創生ということこれから打ち出していこうと言っている。その中で、東京の本社機能を地方に移していくことが大事だということで、それを促そうというような流れも出てくる。まず隗より始めよで、民間の企業が東京の本社機能を地方に移転するというのはもちろん望ましいことで、我々も受け入れたいと思うのですが、まず政府機関が地方に移転をしていくという流れになった時に、著作権等、知的財産権を管理するような、アニメ、コミック、コンテンツをマネジメントするような機能を持ったもの、それを静岡の東静岡に持ってくるという流れは可能なのか。あるいは、前回は文化庁であのような形になったが、クールジャパンの重心が政府の中では経産省の方に移っていったと伺っていますが、その辺りの中で、こういうコンテンツ産業を戦略産業として位置付けて、静岡として発展させていくよ、それは日本の象徴、富士山の麓だよというようなアピールをしたならば、その可能性はあるものなのかどうなのか、遠山委員の御見解をお聞きしたいと思います。

【高階会長】 じゃあ、遠山委員、よろしくをお願いします。

【遠山委員】 今思い出しますと、アニメ、コンテンツについての殿堂をつくるという案は、私自身がプランし文化庁とともに作ったのです。そして、麻生政権でして、与謝野さんが官房長官でしたか。これは良いということでやったのですが、小泉政権の直後、いろいろなことがありまして、要するに民主党のアンチ自民党のターゲットになったのです。それで、漫画喫茶なぞをつくるのかという極めて次元の低い反対で、メディアもたたき国民もそれを乗り越えることができませんでした。私自身は大臣をやめた後でしたから表立って動けませんでした。

今、世界各地でアニメの、あるいは漫画の、さまざまなことが起きておりますけれども、私は今もってあの時につくっておけば、日本に根拠地がない状況は変わっていたのではないかと思います。あれはすごいプランだったなと我ながら思っていますし、ついでなのは残念でした。そういうことがございました。でも、やはり要るのではないかと思います。

それを、もし手を挙げられるということは、非常に面白いなという気はいたします。ただ、忽然と静岡が手を上げるのがふさわしいか、やはり手を上げるにはそれなりの地盤があり、伝統があり、あるいは何らかの必然性があるということだと、説得性があるかなという気もいたします。これは知事、文化庁長官にも少し相談して、はじめは雑談でやってみるというのも良いかもしれません。

それは置いておきまして、坂さんが、まず、バーンとインターナショナルな視点を持って言われたことは大変意味がありまして、それは、フェスティバルそのものは1年の間の非常に短い期間です。でも、それが継続して行われることによって、そこに注目が集まって、そして著名になっていくという、そのアイデアは何らかの形で活かしていったら良いと思います。でも、それは年の秋のある日、あるいはその1週間、1カ月ということですので。

東静岡をどうするかということなのですが、グランシップが今あります。そして静岡市の方で、西側に何らかをおつくりになるのだと思いますが、是非スポーツの何か魅力的なものをおつくりになると、東側の芸術・文化関係、そして西側のスポーツが一体したすごく魅力的なものができる。できれば、人間が関わる舞台芸術的なものはグランシップにお願いをし、もう一つ、静岡の得意な、食の文化に関わる集合地点みたいなものをおつくりになって、あのグランシップと、それから、空いている辺りにうまく花とかお茶とか食文化のものを何か集積していくと、食文化の中には海の幸、山の幸、そういうものを若干見られるような、あるいはそこに来て、人々がそういうものを楽しめるような、現に食べたり買ったりできるようなものということも集積をして。

つまり東静岡で、さまざまな機能が書かれていますが、あまり多機能になると意味がよく分からなくなる可能性がありますから、やはりスポーツ、文化の中心の何らかのものをを用いて、そこで何か舞台芸術の世界フェスティバルでも良いですし、アニメをやってみるのも良いかもしれません。ともあれフェスティバルをやっていくと。でも、日常的には、そこに人々が集まって、本当に楽しいと思えるような施設をつくる。

そして、この静岡の地域で大事なことは、日本平の山頂に、是非きちんとした日本、あるいは、あの地域全体を展望できるだけではなく、富士山とのつながりにおいて、ここが極めて選ばれたところであるということが明確になるような施設をつくる。そして、それと呼応する形で麓の楽しい場所をつくる。その楽しい場所の方は、市民だけでなく、子供、若者、それから一般市民が常に集まってわいわいできるようなところ。そして、山頂には外国からの人たちも来て、日本平からの富士山、あるいは日本平を中心とする歴史です。久能山もございます。

私、つくづく思うには、江戸時代の平和350年を切り開いた英知ある家康が、静岡の地に終焉の場所を求めて、そして久能山に自らの墓を考えたということは、静岡の人たちにとっては、あだやおろそかに考えてはいけないのではないかと。あるいは、これを利用して、

やはりこの地はかなり選ばれたところであるというようにうまくストーリーをつかって、まず日本平の上をきちっと、これは知事さんも非常に明確な様々な夢を持っていらっしゃるようですから、是非そういうものをお聞きして、そこを明確にして、それに呼応して、では、東静岡はどうやったらいいかを考えていくというのは、すごく大事だと思います。以上です。

【高階会長】 ありがとうございます。ほかに。

はい、木苗委員。

【木苗委員】 静岡県立大学の木苗です。

今までお話を聞いていたことと、それから前回のことも含めて考えると、キーワードとしては、もちろん学術、文化・芸術、スポーツでよろしいのですが、静岡県というのは、お茶も含め、海の幸、山の幸に恵まれて、健康日本一なのです。静岡に来たら健康になれるよというように考えると、それは日本人だけではなく、外国人もそうだと思うのですが、ターゲットをどこに絞るかと言うこと。要するに、若い人を育てる空間なのか、それとも、県外に開かれた場所にするのか。空港もあるわけですから、海外からもどんどん来てもらい、なおかつリピーター率も高い施設であることが望まれます。一回来て終わりになってしまうと地域が発展していきませんので、そういう点で、もう少しこの辺りを整理して、健康や観光というキーワードを、ずばり出しても良いのではないかと思います。

また、前回もお話しさせていただいたのですが、若い方々が、これから家庭を持って、そして子供ができて、さらに世界にも進出していくということを考えると、決して地元の若い人だけではなく、先ほど静岡市の田辺市長からもいろいろお話がありましたが、静岡市の既存の施設と良い意味で相乗作用を持つような空間をつくるべきではないかと思えます。実際に今、県内に大学生だけでも3万9千人いますし、外国人も1千5～6百人いるわけです。すごく良い環境が東静岡地域にできたということになると、彼らが広告塔になってくれるでしょう。大学の先生方も、年中、世界を駆けめぐっているわけですから、そういう意味ではグローバルに物事を考えた方が良く、もう一度整理整頓すると、いろいろ出ているアイデアからターゲットを絞り、それからリピーターを増やすための対策を考えることも大切だと思えます。できるだけ若い人をターゲットにしつつ、でも若い人の、ある意味では鑑^{かがみ}になるような方々も常に来られる、いつもいてくれるような場所が望ましいと思います。

先ほどから考えていたのですが、今、平面図を見ながら議論していますが、これを、も

し立体の模型にしたならば大分考え方が違うのではないかという感じがします。私は専門家ではないのですが、内藤先生、どうなのでしょう。これは平面で見ていて良いのですか。それとも、何か立体化して見た方が考えは浮かぶのですか。

【内藤委員】 立体化した方が分かりやすい。

【木苗委員】 もしも立体模型があれば、随分いろいろなことが考えられるような気がしました。

全然まとまらないのですが、私は、夢を大きく持ち、ターゲットを絞って考えたらどうかと思います。以上です。

【高階会長】 はい、荒木委員。

【荒木委員】 前回お休みしたものですから、論点がなかなかつかみきれませんでした。今の件で、「点」を「線」にする、「線」を「面」にするという流れを実現するために、どこどこをつなげばよいかを資料2に示す必要があります。立体的に示せば分かりやすいと思います。

中西さんか岩崎さんだと思いますが、日本平とつなぐのは草薙なのだという話がありました。そうすると、東静岡を始点にして考える場合の問題点を挙げて、その解決策を示す必要があります。私は交通手段の整備が重要だと思います。ケーブルカーとかりフトの話があったのですが、私はまず、道路を考える必要があると思います。この東静岡駅と日本平のところの、特に東名のサービスエリア、多分ここにスマートインターチェンジができるわけですね。そうすると、そこにダイレクトに行くという、その道筋の開発でしょうか。東静岡がいろいろな拠点になるためには、交通インフラがきちんとされていないと、そうなりません。今はなかなか行きにくいところです。

そこをどうするかという詳細な案があるのではないかと思います。たまたまこの資料2は赤線で、直線的に書いてあります。坂道ですのでこれを立体で描くと大変なのです。この辺りにどのような考えをお持ちか。そうすると、日本平といいますか、古のいろいろなものがある、さらにはここに夢殿をつくるといった時の非常に近道ができる。そうすると、東静岡駅が生きてくる。こんなように思うのですが、これからの都市計画を田辺市長さんにお聞きしたいと思っていますが、いかがでしょうか。

【田辺市長】 ありがとうございます。それを語り始めると30分かかってしまいますので、要約いたしますと、そういう視野で考えております。

論点から鮮明にしていくと、第1回の有識者会議の冒頭で、知事がそういう考え方でこ

の議論を始めたいということをおっしゃいました。今日は論点2、論点3で、東静岡、日本平山頂というところに少し絞り込んだような問題設定をされているということでありますが、エリアとして東静岡を起点にして、ゲートウェイにして、久能山、日本平、そして三保まで展望するエリアとして、ここをどう文化、スポーツの拠点エリアにしていくかというような考え方だろうと思います。その時に、交通アクセスは大変大事なポイントであります。

そこで、この構想が1つ大きな実現に向けての計画になっていけば、29年度に供用開始の大谷・小鹿のインターチェンジは大変なアクセスポイントになっていきます。今、ネクスコでは、このインターチェンジの名称を（仮称）静岡東インターチェンジと呼んでいるのです。それは現在の中島のインターが静岡インターですから、その東にあるということで静岡東インターチェンジなのですが、今、蒲原、由比まで静岡ですので、彼らからすると、何だ、あそこが東なら私たちは極東かという話になってしまうわけです。むしろあそこにふさわしい名前は、この有識者会議の方向性が決まってくれば、ずばり日本平インターチェンジだということです。ですので、ネクスコさんの方にも、今、これは仮称として置いてあるのですが、将来、静岡市の都市計画と整合性を持たせるためには、是非日本平インターチェンジに名称変更してもらえないかという提案をしています。と同時に、清水と静岡の合併前にJRの東静岡という駅もできましたので、これも東静岡ではない、ここはもう中央静岡になっていくのだという意味で、日本平のゲートウェイとしての、ふさわしい名前に改称すべきだと。これはJRさんに対しても、知事に対しても提案をさせていただいているところで、大変この南北軸、東静岡から大谷・小鹿、日本平区間は都市計画、これからも重要だと考えております。

私が先ほど申し上げたこと、つまり戦略産業としての、ある意味コンテンツを政府機関としてここに持ってこられないか、著作権の管理、そうすると周辺の関連のビジネスがここに集積をしてくる。もともとコンテンツとするとプラモデルがある。そしてSPACという身体表現もある。そういうものもやっていくと、ここは非常に拠点になるのではないかと考えています。つまり、一番大切にしたいのは、産業化できるかどうかです。これが地域経済の拡大につながっていくような仕掛けをしていかないと、やはり雲をつかむような議論をしていても仕方ないだろうと。だから、これを産業化していくためにはどういう仕掛けが必要なのかという意味では、やはり、富士山と今の日本の強みです。もちろん富士山はそうありますが、そのコンテンツというものを都市計画の中にプロットインして、

そこを戦略産業として立案をしていくということを大事にしたいなというのは静岡市の基本的な考え方であります。ですので、戦略産業として、文化・クリエイティブ関係産業であるというように設定をして、ここに集積をしていきたいと思えます。以上です。

【高階会長】 ありがとうございます。ほかにいかがでしょう。はい、どうぞ。

【藤田委員】 なすびの藤田と申します。よろしく申し上げます。先ほど木苗先生の方から、3万8千人いる学生をターゲットにというようなことのお話がありましたが、私もこれには賛成です。現状、静岡県は年間1万8千人ぐらい大学進学希望者がいるにもかかわらず、県内の大学の定員というのが、現状8千人しかないということをお伺いしました。そうしますと、1万人は外に出てしまうということになるわけです。静岡から1回外に出てしまいますと、なかなか静岡にまた戻って来てくれないという中では、大学の機能というか、この論点3の「学び」ということにスポットを当て、人口流出も防ぐという意味でも、大学の機能というものが必要ではないのかなと思えます。その中でも、知事が今進めています、食の都づくりということの中で、今年、和食が世界無形文化遺産になり、世界的に注目を集めている。例えば、県立大学の食品衛生学科と連携をして、調理師学校というレベルではなく、もっとグレードの高い食の学術的な観点と、和食の文化が同時に学べるような学部、世界からも、日本の食を静岡で学びたいというような学生を集めて、静岡から食のスペシャリストを育成できるような新しい学びの場というものができないのかなと思っています。よく知事が、静岡は食材の宝庫だというようなお話をされていますが、と同時に食に携わる人材の宝庫という切り口で、この東静岡の地を有効利用してみたらどうかと考えております。以上です。

【高階会長】 ありがとうございます。ほかに。どうぞ。

【酒井委員】 静岡鉄道の酒井です。立場としましては、観光コンベンションの立場で出ていますが、今、この論点2から論点3へ移るプロセスの中で、幾つかのキーワードがあるわけですが、例えば、今日も皆さんおっしゃっていただいています歴史の観点であったり、あるいは食の観点、景観、文化、スポーツ、出会い、静岡らしさ、大都市にない、これらは全て観光にこれから求められる要素であることは間違いないわけです。今までのような、物見遊山的な観光はもう終わっていますので、学んで自分を高めるとか、より高い満足感を得るとか、そういった切り口でこれから観光を提供していかないと生き残れないだろうなという気がいたします。

そして今、観光でやっていく中で、悩ましい点が2つあり、1つは、やはり観光という

のは各行政が重要な施策としてやっていますので、どうしても縦割りになっている。もう1つは、情報提供する手段がパンフレット等を中心とした紙ベースである。もちろんインターネット等で映像等もできますが、それは言っても非常に浅いものであるということになってきますと、今回議論するエリアに幾つかの要素が可能だと思いますが、そのうちの一つとしてお聞きいただきたいと思うのですが、これは静岡を中心とした、これからの観光に必要な情報提供の場、先ほど市長の方からもゲートウェイという言葉がありました、静岡に来た方、何でも良いからおいでなさいと。ここに来ると何でもそろっていますと。皆さんの興味は何ですか、例えばアルプスの山に興味がありますか、駿河湾の奥に興味がありますか、食文化に興味がありますかというようなことを全部ここで、レベルの高い映像等で紹介してあげる。皆さんの自分の中にある興味というものをくすぐってあげるような、ここにすれば全てが分かる、それをもって伊豆へ行きましょう、では、浜名湖へ行きましょう、あるいはオクシズへ行きましょうというようなきっかけになるような観光のモチベーションを提供できるような機能がここにあったら良いと、観光の立場から思います。以上です。

【高階会長】 ありがとうございます。ほかにいかがでしょう。はい、内藤委員。

【内藤委員】 少し違った方面からお話をさせていただきたいと思います。この今日の討議内容の中に景観という名前が出てきていますが、それを何となくやるか、それとも今、景観行政団体になって、景観法の中で景観をコントロールするという、私も幾つも委員をやっておりますが、そういうやり方がありますので、どのぐらい静岡県と市が景観行政をやられているかということ次第ですが、そこのところをもう一回洗い直して景観ということをやられたらいいと思います。ただ、2005年に景観法ができて、景観法をちゃんと使い切れている自治体がまだそれほど多くないという認識をしています。東京都は比較的厳しい運用の仕方をしていまして、眺望制限までやっています。ちなみに神宮外苑の行った先に建ててはいけないという眺望制限であるとか、皇居から東京駅の行幸通りに向けての眺望制限などがあります。眺望制限がかかった先には、超高層でも建てられないという、ある種、私的な権利の制限に至るということもやっています。使い方によってはいかようにでもできますので、一度、この美しい街区をつくる、何かをつくられる前に検討された方が良くと思います。というのは、大きい開発が起きますと、民間というのは、それを見ていて、そんなものができるのであれば、私のところも、その周りにどんどん開発圧力がかかかりますので、その前にどういうまちをつくるのだということを、ビジョンを固めた

方が良いのではないかと思います。

富士山について言うと、東京には富士見坂というのは結構たくさん昔あったわけです。江戸のまちづくりの中で、富士山というのは実は非常に大事な役割を果たしていたわけです。今はもう、すっかり分からなくなっていますが、富士見町であるとか、富士見坂であるとか、そういうのはまだ残っています。では、静岡はどれほどそういうようになっているかという考え方もあるのかなど。富士見という観点から、ひよっとしたならば、この静岡のエリア全体をもう一回見直してみるということもあるかも知れません。こういうようにすると、ここに眺望制限をかけて、ここに何かちょっとした制約をかけると、富士山がこの通りから見えるよとかいう考え方もあると思って聞いていました。

あと、一つだけ申し上げたいのですが、前回も言ったのですが、ロープウェイって結構真面目に考えても良いのではないかなと思っていました。今、世界の都市再開発の結構大きいツールとして、ロープウェイが浮上しています。私が通っていた、南米のコロンビアのメデジン市というところは、鉄道駅に直結する形でロープウェイができ、これが大成功で、今、世界的にロープウェイに注目するきっかけの一つになっています。この距離が可能かどうかは分かりませんが、東静岡からロープウェイに乗って日本平の展望台までというのは、一つのインフラの結構リアルな話として考えても良いのではないかと思います。ちなみに私は横浜の計画にも関わっていますが、横浜でもロープウェイの話が出ています。それから、これは難しいと思いますが、渋谷の再開発でも、昔、渋谷の真ん中にロープウェイがあったのです。そんな話も出てきて、ロープウェイをやったら良いのではないかみたいな話が出たりもしています。しかし、むしろ今回の東静岡から日本平山頂までの方が適地だと思います。以上です。

【高階会長】 ありがとうございます。どうぞ。

【芳賀委員】 私もロープウェイ派でありまして、前回もしきりに強調しました。そうしたら、岩崎さんが金がかかり過ぎるとおっしゃった。でも、やはりお金をかけなければこういう地域は生きないので、ここをバスで周るなんて、それはアナクロとまでは言いませんが、走らせるにも乗るにも手間ひまかかり過ぎる。鉄道も今はもう使えない、結局ロープウェイしかない。あるいは自家用車、あとは歩く、それしかないでしょう。やはりロープウェイで日本平と東静岡のふじさんホールと、それから三保松原がつながるといのは本当に理想で、これは考えなければ。このセンターは、どうも今日、資料をいただいた時から、よくもこんなに美辞麗句を並べたと思うほどに美辞麗句を連ねて、こうあるべき

だ、こうあるべきだと説かれている。文化とスポーツと食とお花と、それから米とか魚とか、こんなものまで含めて我々がここで考える必要はないわけであり、先ほど田辺市長は雲をつかむような話と言ったが、やはり雲をつかまなければこれは面白くならないでしょう。はじめから地べたでビジネスばかり考えているのではだめなのです。せっかくこれから面白いものを、静岡は突破するような、新しいものを考えようという時は、雲をつかまなければだめです。大体、富士山というのは雲をつかむためにあるのです。雲をつかむということは、つまり富士山をつかむことであって、富士山をつかみ、そしてその富士山を見ながら、静岡市内の最も有名な歴史のある日本平とこの拠点をつなぐにはロープウェイしかない。これを今日の会議で決めてもらいたい。

このような調子でいつまでもビジネスも必要だ、若い者の集まりを、それから図書館を移動しよう、これを繰り返してやってもきりがありません。だから、ここはまず文化を中心にして、ビジネスは自ずと後からついてくる。周りにいろんな飲食店ができたり、パン屋のお店ができたり、それからプラモデルのお店ができたりして、それはそのまちなぎわいで良いではないですか。グランシップからこのホールに来る間に、そういう門前町ができる。しかし、我々の方のホールは非常に発信力のある美しい、その建物自体が文化力を持っているような建物で、しかもそこにロープウェイが久能山から日本平経由でやってきて、三保松原まで行く。これこそ今考える時であって、21世紀になって今さらバスだ、東名高速からインターをつくらうだなど、そんな古くさい。アナクロだ。それから、食もたくさんあるが、それも何も、ここでわざわざ県や市が寄ってたかつてつくる必要はないわけで、それはそれぞれのビジネスの担当の人たちがやがて集まってくる。

それから、やはり今、言われたように景観の問題があるわけで、東静岡の周辺にできているによこによこした、変な四角いようかん箱を縦に立てただけみたいな、全く不格好な、何のデザインもない、何の文化発信力もないマンション。あれは破壊したいと思うくらいであって、それくらいしないと、とてもここは文化発信力だの、文化の殿堂だの、そういうものになれない。やはりここは大きな話をして、しかも集約する。その集約の拠点はあくまでも富士山。それ以外にあり得ないと思う。食も、花も、景観も、それから文化もみんな富士山に集約して行ってこそ、ここにこの新しいセンターができる意味があるわけです。

ここには田辺市長がおっしゃったように、県立図書館のせめて一部を持ってきたい。あれは本当にもったいない。山の上で、しかももう古くなった建物で、しかし優秀な司書が

集まっている。それから、良い本を持っている。それが、えっちらおっちら草薙から上って行かないとたどり着けない。本を借り出したりしたらもう本なんか持って帰れない。あそこ、本当に良い図書館なのです。私、すぐ隣の県立美術館なので、いつも行っていますが、とても快適でとても良い。あの機能の一般向けの部分を、ここのセンターに持ってくる。それから、美術館もやがて下りてくる。それから、下に若者たちの、赤ん坊からお母さんまで、老人まで来るような遊び場がある。そして、上に行くと富士山がある。そこでロープウェイに乗れば久能山、三保松原まで行ける。それで良いではないですか。それをまとめてしましましょう。これ、いつまでも美しいこと言っていたってきりが無い。

【高階会長】 東委員、どうぞ。

【東委員】 東です。今、先生がおっしゃったとおり、私も富士山を夢見ながらというか、高みを見ながら、この東静岡中心を考えてみたいと思っています。ただ、今日の資料をいただき、いろいろ考えてまいりましたが、最後の文化・観光部からの資料を見せていただきますと、この東静岡と草薙駅の間に静鉄の駅が幾つあるのだろうと思いましたが、4駅あります。その立地、空間は住環境によいことが分かります。今、全国各地で人口減少に伴って、コンパクトシティ化、高齢化、低炭素化の実現に向けた公共インフラの暮らしやすさを考えると、ここのエリアには交通他公共インフラが、集積しているということです。東静岡地区の景観は、規制もなくどんどん建設されていることは私も気になっています。しかし、立地条件からの住環境ということを考えれば、居住したいという人たちは多く、人気です。マンション建設のニーズがあります。そうすると、先ほどからお話があるように、快適な住環境、子供を育てるこれからの世代の人たちや、学生がこのまま住み続ける環境条件を満たす可能性のあるところでは、また、気候温暖の自然環境は、買うことのできないインフラですので、大勢の方たちが東京から静岡に住もうという希望を持つことを考えると、利便性が高い東静岡周辺というのは、最適な空間になってくると思っています。

そして、ロープウェイの話が出ました。新しい視点場を形成し上から眺めて、見せ方を変え、より良い景観形成をしていくということも考えられます。高層ビルの林立した空間には、先回も出おりましたが、緑化による空間機能としてのもてなしゾーンとか、憩いゾーンを演出し、都市の連続性を図りながらの緑のあり方を検討しながら都市空間の再構成していくことも一つだと思います。

私は本日、東静岡を拠点にしてお話をさせていただきましたが、どうしても今日の最後

に頂いた地図を見ていますと、三保松原、三保半島と日本平というのは、やはり一体で考えなければいけないと思っています。県立自然公園としても日本平・三保の松原県立自然公園です。そういった地形的にも一体的に考えていく必要があると思います。東静岡、日本平、三保半島を含めた空間のあり方と考えると、日本平はハイキングコース、遊歩道もありますし、それからマラソン大会、スポーツ公園、そして野外劇場と、いろいろな文化施設がそろっています。また現在、リニューアルも計画中です。そうすると東静岡周辺に多くの人たちが快適な居住をするためのゆとり、楽しみ、憩いの場の観点でも、日本平、三保半島の空間を考え進めてもよいのではないかと思った次第です。

少し長くなりますが、現在は、三保松原のみの単発観光です。学生たちと、どのように三保半島を活性化しようかと三保半島の振興といった時に、先ほどお話の中にも出ていましたが、整理、整えることが、一番今大事なのではないかということなのです。それと、先ほどたびたび出ておりますが、イベントをしながら、何かものをつくるのではなく、整理、整除することが課題であって、整えていくことによってこの地の魅力というのが出てくるのではないかという議論をしているところです。途中、折戸湾という、以前貯木場だったところもございませう。ここも貯木がなくなりまして、いろいろな水面利用を考えている、魅力ある清水を考える会の民間の方たちもいらっしゃいます。私は、東静岡を考える時、この日本平、三保半島一体になって空間の利用を考え、この東静岡を中心にした空間機能・施設配置というのを考えていきたいと思っています。

また、加えて静岡は国道と鉄道が南北を分断しています。先日、静岡市で東静岡南北幹線の高架道路をつくりましたが、もしこの度の構想で県と市で構造物をつくるならば、鉄道高架の上を、面的開発というのができないものなのかとも思っている次第です。

【高階会長】 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。はい、坂さん。

【坂委員】 さっきの静岡という名前を世界を売り込むというの必要なのですが、もうアートでは少し難しいので、ただ、名前自体が非常に分かりやすい名前であって、しかも遠山先生がおっしゃるように、静岡の場を生かすということは非常に重要だと思うのです。

そういう意味で、私は、先ほど木苗先生がおっしゃった「健康」というのは、もう世界のテーマとしてすばらしく重要だと思うのです。健康イコール、北側の市の施設のスポーツとも関係しますし、健康という意味と、食という意味で、「ビオ静岡」というのはどうか。今、世界中でバイオ、もうビオの食事、ワインも食材も。これだったら世界中から

人が集まるのではないかなと。

【高階会長】 美容でもあるけども……。 「ビオ静岡」？

【坂委員】 はい。そういう、食材から、もちろん日本食がユネスコ無形文化遺産になるということもありますが、世界の人が集まってここでディスカッションをしたり、特産物を持ち寄って見せたりしていかなければいけないという意味では、やはり健康というのは1つのすごく大きな、それはもう運動と食だと思うのです。そういう意味で、静岡の場を生かすという意味でも、これは本当にイベントの年に1週間かもしれませんが、それはすごく強いテーマで、まずビオだけをやった、やはり**幕の内弁当**ではだめだと思うのです。

【芳賀委員】 ビオって、美容院のこと？

【坂委員】 ビオは、バイオ、有機植物の。

【高階会長】 ビオトープとか今、はやっていますね。

【芳賀委員】 バイオという意味ね。

【坂委員】 はい。バイオなのですが、食事のこと、食べ物に関して今、ワインでも野菜でも、ビオと世界中言い始めたのです。

【芳賀委員】 それはちょっと普通の人には通じないと思う。

【坂委員】 いや、ですから、静岡から発信するのです。

【高階会長】 はい、ほかに。今のお話で、静岡の名前を売り込む、世界的にあまり知られていない、つまり多文化理解でいろいろな人が来るためというのはおっしゃるとおりで、そうすると、今、「点」から「線」、「線」から「面」、そして空間的というお話があります。それはもちろん今日のテーマなのですが、今のようなお話を売り込むためには、時間的な継続が大事だと思うのです。アート・バーゼルにしても、ダボス会議にしても、何回か続けていって、今や世界的になっているわけです。ですから、静岡会議をやるなら静岡をアピールする。その場合に、例えば食なら食、健康なら健康でも良い。特に、食に関しては、最初に知事から話があったように、非常に豊かなものがある。

同時に、今、世界的には、食料危機は大変大きな問題になっているわけです。そして、健康とも関わってくるのみならず、GMOとか遺伝子変換の問題とかによる政策の問題、あるいは農業をどうするかという問題がある。何回か食サミットで、何でも良いのですが、少し広げて、同時に豊かな食を楽しむ。あるいは、和食が世界無形文化遺産になってから、フランスでは「ベントウ（弁当）」というのが今やフランス語になってしまいましたが、食文化のあり方、それはさかのぼっていけば歴史にもなるので、一体食をどういうふうにし

てやったか、レヴィ・ストロースの文化人類学の基礎はそこにあります。煮るものと生のものをどうようにするか。いろいろなテーマで、食をテーマとした静岡サミットでも、静岡会議でも良いのですが、何回か続けていくことが大事だと思います。一度や二度やっただけでは進まない。

そうするための施設は何が必要かということです。そして、地域としてやる。もしそれをやるなら、そういう意味で考えていって、その中にアニメや漫画も入ったって良いわけです。エネルギー源としての食料は一体どうなるか、アジアなどの問題になるのですが。そういう形の考え方は、この中で、つまり県内全体としての方向として頭に入れた上で、「文化力の拠点」、これから非常に重要なポイントになるのではないかとこのように、これは私の個人的な感想です。

はい、荒木委員、お願いいたします。

【荒木委員】 荒木ですが、今のような話は、情報網による集約化です。これは非常に大事なことで、世界の至るところで成り立っています。これは、市街地でなくてもできる話です。田舎にそういう施設を建てるといのは結構多くなってきています。

この東静岡駅の周辺でも情報のインフラ整備が重要です。次の回で話そうと思ったことです。大学のコンソーシアムの施設が話題になっていますが、インターネットを中心とした最新の情報技術をきちんと利用する。最近の大学では、教育手法としてアクティブラーニング、あるいは、反転授業が話題になっています。お聞きになっているか分かりませんが、インターネットのようなもので予習させておいて、勉強させておいて、授業では、みんな議論をして身につけさせるという考え方です。

これはまだまだなのですが、昔ながらの教え方に徹している大学が圧倒的に多い中で、そういうところで手本を示すということです。これは、最新の情報技術を駆使して使うということになります。そうすると、今、坂さんから出たような世界のイベントを発信するというようなことが可能になります。そのためには、どの程度の情報拠点としての設備が必要かということをおおきくおこなうといかないだろうと思う次第です。

大学をどうするか、コンソーシアムをどうするかといった時に、そのようなことについては、また次回に意見を申したいと思っています。今、議論されている色々な案を包括できるのは情報インフラであり、先ほどの漫画やアニメの拠点になるという話は、まさしく情報整備だと思っています。

【芳賀委員】 いや、私は、やはりそういうのは反対です。食とか花とか健康、それは

どこだってあるではないか。静岡に限らない。静岡にあるのは富士山だけです。あれを真ん中に置かなければ、とてもものはまとまらない。富士山の名前のもとに、食もあり、花もあり、海もあり、景観もあり、神話もあり、歴史もあるのであって、やはり富士山ということの中核に置かなければ、このホールは成り立たない。アニメだの、健康だの、花だの、それはどこだってある。何も静岡だけで論ずることはできない。愛知県もやるかもしれない、岡山県もやるかもしれない。だから、そういうものはあちこちもうできかかっているし、できかかってつぶれているのだから、この際、富士山でやって、富士山を中心としていろいろな行事をやり、企画を立て、それから図書館も学校も大学もコンソーシアムも幼稚園もそこに集める。それで、グランシップと提携する。それで、間には花をいっぱいにする。それから東海道をちょっと復元する。それをやってから、食だの、花だの、アニメだの……。

【高階会長】 “ふじのくに”であることは前提なんです。当然その上で、ただ、何をすればいい。富士山を眺める……。

【芳賀委員】 だから前提なら、それをはっきり打ち出して、それは揺るがないものとしてここに決めておかないと。

【高階会長】 はい。だから、それは当然の前提で考えて、富士山を眺める場所だけつくればいいということではない。はい、伊東委員。

【伊東委員】 一番最初の取っかかりとして、静岡という話から今日は始まった。私、それをこの間ずっと考えていたのですが、やはりその発想ってすごく良いなと思っていたのですが、一方で、静岡というのをインターナショナルにして、外からたくさんの人が訪れてくれるような、そういうところにしましょうというのがあるわけです。一方で、中西さんが提案した、例えば著作権センターみたいな機能というのをそこに置くことによって、静岡に仕事をつくって静岡に住んでくれる人を増やそうという話です。だから、それはどちらもありなのです。どちらも狙わなければいけない。2つがあるのだということを意識して考えていかないと、何か夢ばかり追いかけていってわけの分からないものになってしまったりしても困る。

だから、両方やらなきゃいけないと思っているのですが、でも、大学の教員がこういうことを言うのはおかしいかもしれないが、やはり今、地方が本当にどこへ行っても困っているのは、人口が減っていつていることではないですか。だから、そういうことに対してせつかく駅前のごい一等地というのが今、活用できるチャンスだという時に、それを今、

地方が抱えている問題の解決にどう結びつけるのかなんていうことも考えなければいけないのかなとか思ったのです。もちろん「文化とスポーツの殿堂」と、そういうコンセプトの中で、今度それをどうやってビジネスにつなげるかだとかということも考えていく必要があるのではないかというように。

【芳賀委員】 ビジネスは向かない。こちらからする必要はない。

【高階会長】 いやいや。それは、まずは何をどうするかということを考えなければいけないわけですから。

【木苗委員】 でも、みんな、言っているのは同じようなことではないでしょうか。全部集約できるように思えます。

【高階会長】 ほかにいかがでしょう。はい、遠山委員。あ、市長があれですか。

【田辺市長】 私、芳賀先生のおっしゃることを整理すると、こういうことだと思うのです。富士山は、日本の強みの最たるものだと。これを「場の力」として生かしていこうということだと思うのです。それで、私は、この静岡というのを、この地域を、富士山という最大の強みを活かしながら、日本の玉手箱みたいなまちにしたいと、そんなふうに思っているのです。

私、興味深いデータを御披露したいのですが、この前、総選挙がありました。比例代表制で政党の名前を書くではないですか。全国の市とつく自治体は810幾つあるのですが、日本全体の政党の得票率と、自治体1つの政党の得票率で、最も誤差が少ないのは静岡市なのです。2番目が水戸市で、3番目が青梅市なのですが。つまり、ここは日本人の意識の上でも、あるいは自然環境の意味でも。

【芳賀委員】 平均値。

【田辺市長】 そうなのです。国土の縮図的な都市なのです。だから、静岡に来れば、日本の全てなのです。富士山があるわけです。その日本の全て、日本の強みは何かといたら、富士山を筆頭にして、健康だろうし、あるいは先ほどから議論になっているコンテンツだろうし、あるいは景観であろうし、日本平、三保、この地域に満載しているものだと思うのです。だからこれは、日本の玉手箱がこの静岡にあるのだというコンセプトの中で、富士山を最大限の強みにしながら同居していけば、これはすばらしい「場の力」になるのではないかなと思うのですが、いかがでしょう。

【芳賀委員】 良いですよ。だから、「場の力」の一番のパワースポットは富士山にあるわけですね。

【田辺市長】 つまり、その中でそうしていかないと、やはり人が集まらないし、産業化していかないと人が集まらないし、学生が集まらないし、雇用先が集まらないですね。

【高階会長】 はい、それを頭に……。

【芳賀委員】 だから、その一番根元にあるイデオロギーは富士山である。富士山をめぐる芸術と文化と歴史と神話と景観と、それから富士山が育んだ産業と。その集約として富士山しかないではないですか。ほかに考えられますか？ ヤマトタケル？ それも良いですよ。

【高階会長】 いや、だから、富士山をどういうように生かすかという具体的な問題になってくるわけです。

最後にいかがですか、遠山委員。

【遠山委員】 私、事務局にお願いなのですが、今、非常に良い案がいろいろ出ました。特にイベント、フェスティバルは、とにかく世界の注目を浴びるようなものをやろうということで、今出た幾つかの案がありますから、それぞれのプラス・マイナスをきちっと考えて、次回提案していただきたいと思います。

それから、もう1点は、やはり今回は、芳賀先生もおっしゃいますように、富士山なのでから日本平と、そこに何をつくっていくかということと、東静岡とを結んで、さらに三保までのばす、これは大賛成です。そういう「面」をきちっとしていくためのストーリーとインフラをどうするかと、この2点について明確な案をお考えください。以上です。

【高階会長】 いろいろと、まだまだこちらあたりはご意見がありそうです、言いたいことが……。はい、坂さん。

【坂委員】 **すごく重要なことは宿泊施設だと、私は思っているのです。これだけ世界の人を呼ぶのに十分な宿泊施設がない。**ただ大きなホテルを建てるのではなく、B&B的なものをつくり、やはり個人的なおもてなしだと思うのです、ホテルみたいな大きなものではなく。そういうものであれば、大きな投資をしなくてもできるので、すごくスキンシップのあるおもてなしができるB&B的なものをつくって、地元の食材でご飯を食べてもらうという宿泊施設が僕は前提だと思います。

【高階会長】 分かりました。はい、それでは一言。

【東委員】 もう静岡の方ばかりなので言うまでもないのですが、日本国内で活躍する大道芸人はもとより、海外で活躍する様々な分野のストリートパフォーマーを多数招聘し、パフォーミングアートの祭典になっています。近年では、国内のみならず海外のパフォー

ミングフェスティバル主催者などの視察が多く訪れている国際的なイベントです。それが20年以上続いていて、これは成功事例として私は捉えているのですが、やれない県民、市民性ではないように思っていて、そういったイベントをいろいろ考えていくことが必要だと思っています。

【高階会長】 はい、一言。

【岩崎委員】 宿泊施設のことが出ましたが、坂先生と私、全く同感なのですが、大きなシティホテルをつくって、絶対経営は成り立ちません。日常的に経営は難しくなります。そんなものはできるわけがないと思っています。これは私どもが、市内のシティホテルの経営に携わってよく感じているところです。もう本当につぶれる寸前の状態で何とか維持しているというのが、今の静岡のシティホテルです。この現実はしっかりと受けとめなければいけない。

それから、もう1つは、これは県で考えているわけですから、静岡県には伊豆があり、浜名湖があり、多くの宿泊施設があるのです。そこまで視野を広げて、世界から来た人をここでイベントをやって伊豆に連れていく、あるいは浜名湖に御案内するという視野がなければ、この議論は成り立たないというように思います。

【高階会長】 それはお考えいただくと。まだいろいろご意見もおありだと思いますが、予定の時間が差し迫ってまいりました。本日は、このあたりで意見交換を終えたいと思います。まだ御発言いただいたほかにもお気づきの点、あるいは発言したいことがあれば、お配りしてあります意見用紙に御記入いただきまして、事務局宛てに御送付いただければと存じます。

事務局におかれましては、皆様からいただいた意見を踏まえまして、本年度最後となります第3回会議に向けての準備をお願いいたします。

なお、会議としてのやり方で判断を要する点が生じましたら、一応、私にご一任いただきたいと思いますが、よろしゅうございましょうか。

(「異議なし」の声あり)

【高階会長】 では、本日は長時間にわたる大変熱心な御討議、また御協力に感謝申し上げます。

それでは、進行を事務局にお返しいたします。

【企画広報部長】 高階会長、どうもありがとうございました。

それでは、閉会に当たりまして、知事から御挨拶を申し上げます。

【川勝知事】 誠にかんかんがくがくの議論は聞いていて楽しゅうございました。ありがとうございました。

今日は、東静岡を「文化とスポーツの殿堂」にすると、これについては御異論がなかったということです、これは具体化を図っていこうと思います。それからまた、三保松原も入れて「文化力の拠点」にするということにつきましての中身については、たくさんの議論ができましたが、これについても基本的な合意を得られたと思っています。

静岡というのは、清水と静岡の2つのまちからなっているということですから、玄関口は東静岡だけではありません。実は、清水港もそうです。ですから、ある意味で、海への出入り口、ゲートウェイというのは清水港で、今や、いわゆるクルーズ船が十数隻来て、いわば動くホテルが来ているということで、これは最高の、来年中には世界で最も美しい湾、今は富山湾と松島湾になっていますが、富士山と伊豆半島を臨み、日本で一番深い、また駿河湾の宝石、清水港というのを、むしろ玄関口として考えることができるので、ですから陸側の玄関口としての東静岡、それから海側の玄関口としての清水港と。そして、むしろ清水のほうが名前としては美しい、また古いというのもありますので、ですからそういう観点から見ると、三保松原を入れるのは当たり前なわけです。

それから、“ふじのくに”という、その“ふじのくに”の都は、東京タワーのあるところではありません。富士山のあるところですよ。ですから、日本平というのは、ふじのくにの都なのです。そういう美しい景観を借景として、またあるいは信仰の対象、自分を感化する、そういう源泉として仰ぎ見るということで、それにふさわしい品格のあるものをつくらないといけない。

その中には、まずはインフラストラクチャーが大事だということで、すぐに三保から東静岡というようにはいきませんが、三保側から、果樹研究センターからこの頂上の方に上って、しかもロープウェイにつきましては、これは今日は静鉄の酒井社長が来られていますが、もともとは皆さん御承知のとおり、『来し方の記』でしたか、あのきれいな本がございました。遠山先生が書かれたその本をお読みになると、実は、遠山先生の御尊父がこのロープウェイを実地に企画されたわけです。そういうことがあって、今や結婚式でも、御神殿で結婚式を挙げて、日本平のホテルで披露宴をするということにもなっていて、多くの方々に愛されているところであります。愛される理由は、もう言うまでもなくあります。

久能山となれば、これはもう聖徳太子の時まで行きます。聖徳太子は、「和をもって貴し

となせ」と。日本で最初に富士山に登ったという伝説は、聖徳太子です。そして、その大切な聖徳太子の哲学をもって、ここを終焉の地になさったのは家康公ですから、家康公は、久能山です。

ですから、富士山と、日本武尊^{やまとたける}と、それから家康公と、そして来年は、家康公400年祭です。ですから、ここはもう「文化力の拠点」となるべくしてなるといことなので、そしてほかのものは、経済も政治も文化の僕^{しもべ}であるという、そういう観点に立ってしっかりとした精神の高さ、静岡のあるいは清水の文化力の高さ、日本の東西の文化がここで交流する、その文化力の高さを示せば、自ずと政治家も、あるいは経済人も、それに均てんすることになるというふうに信じております。

そうしたことで、ここはあまりにもたくさんの議論が出ますので、若干、作業部会のようなものも、先生方の間からできる方に加わっていただくことも必要かなというようにも思っている次第でございます。いずれにしましても、今日は事務局にたくさん仕事を、宿題を頼みまして、冬休みは誠にもって充実することになりそうであります。

先生方におきましては、今年1年、本当にお世話になりまして、来年もすばらしいお年になりますようにお祈り申し上げまして、御礼の御挨拶といたします。誠にありがとうございました。

【企画広報部長】 委員の皆様方には、年末のお忙しいし中、長時間にわたり御審議をいただきましてありがとうございました。

以上をもちまして、第2回東静岡周辺地区の整備に関する有識者会議を終了いたします。

— 了 —